

ご挨拶

令和四年七月

曹洞宗 奕葉山 昌伝庵

そうとうしゅう えきようざん しょうでん あん

住職 今成 幸裕

副住職 今成 健二

「障害者」しょうがいしゃ について思う事

住職には三人の子どもがいますが、一番下の娘は生まれつきの重度の知的障害者です。年齢は三十歳になるのですが、言葉は話せず食事も一人では出来ず常に目を離せない状態です。

私も妻も、最初の頃はどう育てて行けばいいのかと悩み落ち込む日々でした。

ところがある日突然、妻は「私達に色々教えるために、天から遣わされてきた子なのかもしれない。」「人に愛情を注ぐようにと教えるために姿を変えてこの世に現れてきた崇高な魂の持ち主なのだ。」などというようになったのです。

確かに赤ちゃんが常に傍にいとと同じで、昼夜問わずに気が抜けず睡眠不足の日々を送る中で、崇高な魂の持ち主から修行を与えられていると感じております。

今、障害者への不当な差別的取り扱いの禁止や合理的配慮の提供が求められている時代です。障害者から私達の心の在り方を学んでいくことが大事だと思います。

庫裡の建設を考える

平成三十一年の寺報でもお伝えしましたが、寺で使っている地下水が数年前から何故か濁ってきて白い洗濯物は妻の実家に行つて水道水で洗濯し、お客さん用のお茶の水は門前にある水道の蛇口まで行つて汲んでくる生活をしています。

色々な業者さんに相談してはあれこれと策を考え教えて頂きながら様々試してきたのですが、結局は水道を引いてくるとなると参道を壊して引いてこなければならず、引いてきても庫裡を大改造する必要があるようです。

庫裡は戦前の建築で築約八十年になり、修理しても雨漏りは止まず、戸も隙間風が入り放題です。更には地盤が弱い事も相まって地震のたびに壁に大きな亀裂が入るなど様々な被害が出る状況です。

約三十数年前に下水道敷設工事で庫裡や会館のトイレ等の水回り工事をしたのですが、周りが墓地や田んぼだった為、下水管は庫裡の廊下の下を通り、参道の

片側を掘って駐車場に繋がっています。

本堂はあと百年〜二百年持つとしても、水道管敷設と庫裡及び水回りは、この際新たにした方がいいと考えます。

また、参道を壊して水道管を通すのであれば、併せて五十年が経過して老朽化している消雪設備も更新してはどうかとも考えます。

なお、この件についてご意見のある方は、住職又は役員まで申してください。

昌伝庵役員名

ここに掲載の内容は、個人情報保護の観点から、ホームページ上には掲載致しません。

ただし、寺報には役員の方の承諾を得て掲載しております。

裏もご覧ください。←

懐かしの写真 No. 5

昌伝庵の古い写真を紹介しています。
昌伝庵の変遷を見て頂ければと思います。
(平成13年～15年頃)

平成13年1月4日 豪雪



参道消雪の水は湯水し、スノーダンプでの道付けに限界を感じ、除雪機購入を決心した日でした。20年以上経った今も現役で使用しています。

大日如来祭礼の旗上げ

(平成14年の写真)



毎年7月7日～8日は、大日如来の祭礼です。7日朝の旗上げと9日の旗下しには、東町の方が手伝いに来てくれます。夜は大日講の御婦人方の御祈祷と懇親会があります。



←本堂での葬儀の後の設齋 (平成15年)

以前は、葬儀の後の設齋は、本堂に机を並べてこの写真のようにして会食をしておりました。しかし、この頃からセレモニーホール等での葬儀が一般的になり、このような光景は全く見られなくなりました。

↓ 参道の側溝を埋める (平成15年5月)

これまでは側溝に鉄板の蓋をして、毎年付け外しが大変な作業でした。冬の、蓋を外した側溝は脱輪も多く、不便をしておりましたが、ある日ふと思いつき、側溝を埋めてみました。これが大変良く、雪は消えるし、我ながら大ヒットのアイデアとなりました。



永平寺参拝旅行のご案内

期日 ; 10月29日(土)～31日(月)
行程 ; 6:30 米沢発 ～ 永平寺(泊)
2日目 一乗谷 ～ 山代温泉泊
3日目 金沢 ～20時頃 米沢着
会費 ; 62,000円
締切 ; 8月31日まで会費を添えて昌伝庵へ
主催 ; 曹洞宗山形県第二宗務所
備考 ; 詳細は本堂に掲示します。永平寺で朝の勤行に参加し、諸堂拝観等。
コロナ感染対策を行って実施します。

